

**「丹後の海の恵みを生かすアクションプラン」に係るパブリックコメントの要旨
及びこれに対する府の考え方**

項目	意見の要旨	府の考え方
1 京都の強みを生かした力強い経営体の育成	○ アマダイの規格統一に向けて、竜宮浜地区への流動氷、殺菌冷海水等の設備導入に対する支援（補助金）が必要。	□ アマダイは次期ブランド品候補と位置づけており、供給体制の強化等に必要な施設整備については、支援をしていきたいと考えています。具体的な内容については、別途、京都府漁業協同組合を通じて協議させていただくこととなります。
	○ トリガイの種苗生産を拡大し、支援することが必要。	□ トリガイは、本アクションプランでも重要性が高いものとして位置づけており、平成25年度の生産額1.5億円を目指して種苗生産の拡大（H22年37万個からH24年54万個）を図って行くこととしています。
	○ 一次加工による販売を推進し、支援することが必要。	□ 一次加工の推進、支援については、従来から普及事業等で取り組んでおり、今後も継続して実施する予定です。
	○ 生産者価格と消費者価格の格差を少なくし、漁業経営が継続できるような生産者価格を設定できるようにすることが必要。	□ 生産者価格と消費者価格の格差是正については、非常に難しい問題ではありますが、生産者、消費者双方のためにも着手しなければならないと考えています。 まずは、新たに開発した加工品などから従来にはない販売経路や流通方法を開拓することとしています。 また、少しでも生産者価格が向上するよう、付加価値向上や消費拡大に向けた施策を展開することとしています。
	○ 生産量の目標を立てて、必要な技術開発、漁場や施設整備を行うことが必要。	□ 御意見のとおりと考えています。 天然物については自然変動が大きく生産量の目標を立てることが難しいため、まずは、養殖物において実践することとしており、トリガイ、イワガキについては既に目標数（金額）を設定して進めています。

	○ 漁港の一部にサザエやアワビの蓄養場をつくることも考えてはどうか。	□ 既に、様々な検討を行っています。現在進めているアワビの陸上養殖も、それらの検討の中で推進することとなりました。
	○ アワビ、イワガキ、トリガイ等の浅海の資源については、温暖化の影響とその回避策についての検討を始めることが必要。	□ 既に、検討は進めていますが、天然資源については、有効な解決策を見つけるのが困難です。 養殖種については、トリガイにおいては高水温に強い系統の選別、アワビにおいては飼育密度の低減化などで対応することとしています。
	○ 京都産水産物が選ばれて購入されるよう「間人がに」や「丹後とり貝」など個々のブランド水産物をけん引役とした「京都のさかな」のブランド化やイメージアップに取り組むことが必要。	□ 御意見のとおり、丹後産水産物の周知と消費拡大による魚価の向上を図るためのけん引役とするためにもブランド化の推進は必要であると考えています。
	○ 丹後・旬の魚の見直しを検討することが必要。	□ 今後、水産物のブランド化を検討する中で丹後・旬の魚の見直しについても検討して行きたいと考えます。
2 実践研修による実力ある担い手の創出	○ 漁業従業者に対する能力向上を目的とした各種研修は良い。	□ 考えに賛同いただき、ありがとうございます。 皆様の期待に添えるよう効果的な事業の実施に努めます。
	○ それぞれの漁業毎に実践漁場を設定し研修することは漁業の魅力を増やし、丹後地域において漁業に就きたいと思う人が増えてくるので良い。	□ 考えに賛同いただき、ありがとうございます。皆様の期待に添えるよう効果的な事業の実施に努めます。

<p>○ 定置網漁業の経営体などにおいても一般企業に準じる求人情報を府内で一元化し、各高校等へ広報するなど希望者が応募しやすい体制づくりが必要。</p>	<p>□ 府では、平成22年4月から農林水産業への就業希望者の研修受入窓口として担い手づくりサポートセンターを設置しており、漁業部門の求人情報等は漁業協同組合連合会で一元化しております。</p> <p>アクションプランには明記していませんが、今後は募集情報の提供体制等についても検討を進めていきたいと考えています。</p>
<p>○ ミスマッチ就業や早期離職を防止するために、一般企業でいう会社見学などを体系化していくことも必要。</p>	<p>□ 現在は海洋高校生と漁業士会との交流活動の中で定置網漁業については漁ろう体験が行われています。</p> <p>また、定置網や底びき網漁業への従業員採用に際し、6箇月間の研修期間を設けている場合もあります。</p> <p>今後は体験就業の体系化についても検討していきたいと考えています。</p>
<p>○ 漁業の新たな担い手の育成と、漁業が新規就業者にとって魅力的なものとなるような支援が必要。</p>	<p>□ 新たな担い手の育成としては、漁業への就業を希望する方を対象とした研修や新たな漁業種類に取り組む方に対する実践研修を計画しています。</p> <p>また、複合経営を推進することで漁業所得の向上を図り、漁業が魅力ある仕事となるよう施策の実施に努めます。</p>
<p>○ 漁業技術の研修は絶対に必要であり、強力な指導と支援が必要。</p>	<p>□ 漁業経営を向上、改善する上で、漁業技術の研修は不可欠であると考えます。</p> <p>昨今の魚価の低迷などから各経営体には自力で実施するだけの経営体力が不足していると考えられるため、本プランにおいて支援を行うこととしています。</p>

	<p>○ 基幹漁業である定置網漁業や底びき網漁業の従業員が安定した収入を得るためだけに潜水漁業を押し進めることは水視漁業者の経営を圧迫することになる。</p>	<p>□ 潜水漁業に対する実践漁場の導入は、定置網漁業や底びき網漁業の従業員のみを対象としたものではなく、他の個人漁業者も対象としています。</p> <p>また、水視漁業者と十分に協議をし、水視漁業者の経営を圧迫しないよう資源管理をしつつ、より効率的に資源を利用するといった観点からの仕組づくりを行い、理解を得た上で進めることとしています。</p>
	<p>○ 潜水漁業も大事だが水視漁業者にとって潜水漁業の導入は死活問題である資源管理、資源保護の観点からの検討が必要。</p>	<p>□ 水視漁業が船上から見える範囲での漁獲であるのに対し、潜って操業する潜水漁業はより多くの水産物が漁獲できるため、ともすれば資源の枯渇につながります。</p> <p>しかし、害敵の駆除や漁場の清掃など資源管理の観点からも潜水の導入は有効であり、しっかりとルールを守って実施すれば、資源管理を行いつつ効率的に漁獲することが可能です。</p> <p>そのため、京都府では潜水漁業の導入を推進しておりますが、やみくもに導入するものではなく、水視漁業者と十分な協議をし、理解を得た上で、進めることとしています。</p>
<p>3 漁村資源の効率的な活用による「丹後の海ファンの」獲得</p>	<p>○ 閉鎖湾（漁場）の整備が必要。</p>	<p>□ 資源の維持、増加に向けては増殖場や藻場等の造成も重要と考えており、従来から必要性、緊急性に応じて実施しています。</p>
	<p>○ 京都産魚介類のPR（イベント等）が必要。</p>	<p>□ 丹後産水産物のPRは必要不可欠と考えており、府内のデパート等での定期的な即売会の実施や丹後産水産物を用いた料理コンテスト等に対する支援を計画しています。</p>
	<p>○ 魚食普及に対する支援が必要。</p>	<p>□ 魚食普及の重要性も強く認識しており、マグロの日、ブリの日等の設定や丹後産水産物を用いた料理コンテスト等に対する支援を計画しています。</p>

<p>○ MSC認証の積極的な活用など環境と調和した漁業により生産されたものであることを強調するとともに、ズワイガニやアカガレイ以外の新たな認証の獲得が必要。</p>	<p>□ 丹後水産物の消費拡大に向けては、御意見のとおり、MSC認証など環境と調和した漁業により生産されたものであることの積極的な周知等も必要と考えており、平成22年度事業でも消費者へのMSC認証に係る説明会の開催を計画しています。</p> <p>新たな認証獲得の必要性も認識しておりますが、まずはMSC認証そのものの周知及び現在の認証品の消費拡大が先決と考えています。</p> <p>※ 最終案へ盛り込み</p>
<p>○ 環境と調和した漁業を売りものに直売やスーパーとの提携、ネット通販等への積極的な取組が必要。</p>	<p>□ 新たな流通経路の開拓については、新開発商品などを主体として、順次進めて行きたいと考えています。</p>
<p>○ 養殖ものであっても、その養殖環境や、環境に負荷を与えていない養殖であることを示すことで、イメージの悪化を防ぐことが可能であるため周知が必要。</p>	<p>□ 御意見のとおり認識を持っています。</p> <p>加えて、養殖にはその履歴が確認しやすいことや品質管理がしやすいことなど天然物に比べて優れた点もあり、それらの周知に努めることが重要と考えています。</p> <p>マグロについては、環境に配慮した日本で唯一の蓄養という強みを生かし、率先してPRに努めることとします。</p> <p>※ 最終案へ盛り込み</p>
<p>○ 丹後出身者がブランドの宣伝員になれる状況をつくる必要があるとあり、そのためには生産量の確保と購入できる価格設定が必要。</p>	<p>□ 御意見のとおり、ブランド水産物については、一定量の確保と購入できる価格設定が必要との認識を持っています。</p> <p>本プランでは多獲性魚種も含めて丹後水産物の購入場所の増加を図ることとしています。</p>
<p>○ 未利用資源や多獲性魚については漁家での食べ方を周知することが有効。そのために、主婦達の料理コンテストを行い評判の良いものを商品化し、販売してはどうか。</p>	<p>□ 漁家での食べ方を周知することが有効との認識を持っています。アクションプランに記載の料理コンテストについて漁家の主婦を対象にすることも検討します。</p>

<p>○ 漁家で食べられていない物は食品としての商品化をあきらめ、肥料や養殖魚の餌としての利用を考えるべき。</p>	<p>□ 従来、漁家で食する習慣のなかったアカモクが商品化に成功した例もあり、漁家で食べられていない物でも食品としての利用方法を検討することは必要だと考えています。</p>
<p>○ 流通面の対策を行い、魚価単価が2割・3割でも上がるように考えるべき。</p>	<p>□ 流通面の対策については、新開発商品などを主体として、順次進めていきたいと考えています。</p>
<p>○ 久美浜湾の水質浄化や災害時の洪水対策として水戸口の浚渫等改修工事を行うべき。</p>	<p>□ 「丹後の海ファン」の確保のため、美しい海を守ることは必要と考えております。久美浜湾については、漁業はもとより、観光振興や海運など幅広い利用が図られており、関係機関と連携を図って整備を進める必要があると考えてます。</p>
<p>○ 磯根資源は、漁業者自らが管理しやすく複合経営の収入のベースになる可能性が高いことから、磯根資源のつくり育てる漁業を一層促進することが必要。</p>	<p>□ つくり育てる漁業の振興は、水産資源の維持増大のために不可欠であると考えています。</p> <p>また、磯根資源を漁業者自らが管理するためにも潜水漁業の導入は効果的であると考え、推進しようとしておりますが、やみくもに導入するものではなく、水視漁業者と十分な協議をし、理解を得た上で、進めることとしています。</p>
<p>○ 舞鶴湾においては、ナマコやアサリが大幅に減少しているが、このような地域海域の特性に合った水産生物の増殖対策についても一層の促進が必要。</p>	<p>□ 地域海域の特性に合った水産生物の増殖対策については、アサリの減少に係る原因調査と対策の検討など、従来から必要性、緊急性に応じて実施しています。</p>
<p>○ 「海の恵み」は海の環境が保全されている状況の下でもたらされるものであることから、藻場造成や無給餌養殖、MSC認証漁業など環境保全につながる漁業の振興についての促進が必要。</p>	<p>□ 御意見のとおりと考えており、アクションプランにおいても藻場造成や無給餌養殖、MSC認証漁業などに係る取組への支援は行うこととしています。</p> <p>※ <u>MSCについては最終案へ盛り込み</u></p>

その他	<p>○ 魚市場設置場所の検討が必要（より都会に近い福知山辺りに設置した方が消費者に少しでも早く届けられることから魚価の向上につながる）。</p>	<p>□ 漁業協同組合の合併が進みつつある中で、市場の再編についても漁業協同組合や漁業協同組合連合会を中心に検討が進められるべきであると考えています。</p>
	<p>○ （平均漁業生産額を400万円に近づけるなど）目標設定に厳しい箇所もあるが、中間案の内容は今後の海の恵みを生かせるものになっている。</p>	<p>□ 良い評価をいただき、ありがとうございます。</p> <p>皆様の期待に添えるよう効果的に事業を実施し、漁業の振興と北部地域の活性化に資するよう努めます。</p>

